

対『富山勢』初勝利は「今季1番の内容！」との評価も
富山 0-2岐阜【第3節】

今度こそは負けられないと、意気込んで乗り込んだ東海北陸ダービー第3戦。この試合は和正がキレキレ。片桐が移籍した後すっかり攻撃の組み立て役として機能している感じ。2点目に繋がるスルーパスは非常に綺麗だったし、受けてしっかり決めた西川も見事。立ち上がり少し危ない場面はあったが、それ以外は終始安定した試合運び。富山の攻撃に運動性が少なく、岐阜の守備がしっかりと受けて立つことができた。スコアは2 - 0であったが、点差以上に安心して見ることができた。(岐阜の誇り)

F C岐阜対富山戦は2対0で見事な勝利。前半に嶋田選手のゴール、後半西川選手のゴールで突き放す理想的な展開。今季目標の10位も見えて来た。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！。F C岐阜頑張れ！(ハマツチ)

試合全体を通して岐阜の出足が鋭い。それともカターレ富山の出足が鈍いのか？面白いようにボールを奪い、右から左から中央からと果敢に攻め込む岐阜の選手たち。岐阜サポの多くが持っているだろう富山への苦手意識をあっという間に忘れさせてくれる。ゴールは二つともグラウンダーのボールで、雨に濡れている芝をうまく利用したようにも見える。勢いに加えて落ち着きまで出てきたか？ホントこのチームは試合を重ねるごとにでっかくなっていくなあ、と思える位「快勝」と呼べる試合でした。(ST57)

東海北陸ダービーと銘打たれた今年三戦目の富山戦。アウェー富山での開催ではあったが、土曜日の午後開催ということもあり、岐阜から東海北陸道を使い、多数の岐阜サポが集結。途中、事故で高速が事故により通行止めになるアクシデントもあったが、アウェー側はサポ達で緑に染まり、サポの応援も完全に富山を圧倒した。

試合に関しては、多くのサポが「完勝」「余裕を持ってみることが出来た」等、納得の試合運びで2-0の勝利。もちろん、もっと得点できたかもしれないが、富山のG Kの出来が良かったこともあり、それほど不満は出なかったように思う。

また、この日は「東海北陸ダービー The 対決!!」として、グルメ対決があり、両県それぞれの牛串・カレー・コロッケ・練り物・地ビール・アメのどちらのものが良かったかを投票して決めるイベントがあった。結果は富山側の勝利だったが、これに関しては聞いていた岐阜サポたちも、「試合に勝てばいいから」と、それ程の不満は出なかった。

試合後、多くの岐阜サポは富山市内の回転寿司の店に集結。緑の服を着た、明らか先ほどまでスタジアムにいましたよという面々がぞくぞくと。気がつけば、午後4時台にもかかわらず、店内は全席岐阜サポで埋まっていた。この時の店員さんは予想外の入りに明らかに動揺。まさか、こんな時間に満員になるとはといった感じ。皆さん、笑顔で寿司を堪能されていた。また、聞いたところによると、もう一店あった回転寿司にも岐阜サポが多数押しかけたとの事。まさにこの日は富山を岐阜の緑で染め上げた一日となった。来年も富山での東海北陸ダービーで岐阜の緑に染め上げて、勝利したいものだ。(緑の小太鼓)

2年前、ボくら岐阜はJFLにいた。その時、富山にはアローズ北陸とYKK・A PというJFLのクラブが2つあって、この2クラブとの計4戦、岐阜は一度も勝つことができなかった。F C岐阜が産声を上げた年には、この2クラブはすでにJFLで戦っていた。今季Jリーグに参入したカターレ富山は、この2クラブが母体となっている。

その富山との今季初戦。前半こそ何度かチャンスを作ったものの、結局相手の術中に嵌り、終わってみれば0 - 3の完敗。結果のみならず、今季の中でもワーストの上位に入る惨憺たる内容だった。ボクにとっては、試合以外にも衝撃を受けて、とにもかくにも忘れることのできない一戦だった。オマケに、両県の知事も参列した第2クールの長良川でも引き分けに終わり、かなりの岐阜サポにとって少なからず忸怩たるものがあつたのだろう。

こうして迎えた第3クール富山戦。舞台は因縁の富山県総合運動公園陸上競技場。雪辱を期す岐阜サポの多くがゴール裏2階席に陣取る。その数は、ホーム・ゴール裏の富山サポを軽く凌駕しているようにも見えた。(もちろん、メインやバクスタの観客を含めれば、富山サポの方が多かったと思う)とはいえ、富山ゴール裏のサポーターは、相変わらず跳ぶのも両手を頭上に挙げての手拍子も揃って、敵ながら見事というより他はない。

しかしながら、借りを返すべく雪辱に燃えていたのは岐阜の選手も同じらしく、最初のシュートこそヒヤリとしたものの、その後はず〜と岐阜のターン。先取点の場面などは、パスワークも個人の(特に和正の)テクニックも美しさに溢れ、天敵?みたいな富山G K中川が一步も動けない完璧なゴール。2点目のショート・カウンターも極上の一品で、この日の岐阜は「次の試合にとっけ」というような攻撃を繰り返し見せてくれた。G Kが中川じゃなければ、もう3点は取れてたな(笑)。同じように決定機が得点にならなかった熊本戦とは違い、シュートが枠を捉えていたのが素晴らしかった。とにかく、中川選手はさっさとJ1へ行ってください。柏の菅野選手のような活躍ができると思います。結果としては2 - 0だけど、F C岐阜にとって富山からの記念すべき公式戦初勝利。根気の中でもベストといえる内容に沸き返るサポーター。こういう堪らない瞬間を、もっともっと多くの、岐阜が大好きな人たちと分かち合いたいと願ってます。(くん、)

岐阜を出るとき降水確率は100%、試合開始には止むという上げ潮の天候。JFL時代も含めると3年目にして富山に2 - 0で勝利。この日行われた「アウェーをホームに変えてしまえ」通称(アウェージャック作戦)は成功し、アウェーに乗り込んだサポーターを歓喜についでくれました。この日の相手G K、中川は噂どおりの安定した守備。なかなか牙城は崩せず。しかし、一瞬空いたコースを突いた嶋田と最短距離を走りシンプルに流し込んだ西川。練習で身体に覚えさせ、試合中選手同士で修正することができるようになってきた。チームとしてだけではなく人間的にも、確実に成長しています。後半、西川のゴール時には「良くやった、西川!」と言ってしまった(苦笑)。(ち~な)



絵 ひらっち

today's guest

ヴァンフォーレ甲府

2008 J2 第7位

対戦成績

第0節 08/03/09 甲府 1-1岐阜
第1節 08/05/31 岐阜 1-1甲府
第3節 08/09/23 甲府 4-0岐阜

2009J2

順位表 第4節

勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績
(岐阜から見て)

1	大阪	84p	+36	84	A	H	
2	仙台	80p	+33	68	H	A	A
3	湘南	78p	+26	68	A	H	H
4	甲府	76p	+25	61	H	A	A
5	鳥栖	70p	+17	62	H	A	
6	水戸	67p	+6	63	A	H	H
7	札幌	64p	+11	61	A	H	
8	徳島	60p	+13	56	A	H	
9	東京V	59p	+5	54	H	A	
10	岐阜	54p	-6	50			
11	富山	52p	-6	37	A	H	A
12	草津	49p	-9	53	H	A	
13	福岡	44p	-25	39	H	A	
14	熊本	41p	-21	56	H	A	A
15	愛媛	39p	-21	46	A	H	
16	岡山	35p	-29	36	H	A	
17	栃木	32p	-32	31	A	H	A
18	横浜C	31p	-23	32	A	H	H

次回 HomeGame

第4節

東京ヴェルディ戦

10/7(水) 19:00

@岐阜メモリアル

センター長良川競技場

投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

お待ちしております!

F C岐阜大好き通信(岐大通)

9/27号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田 鑄造

おしらせ

2009年版『岐大通』は、試合数増加のために全ホーム戦での発行を断念し、3~4節ごとに発行の体制で臨んでいます。

次回発行:10/25愛媛戦

よろしく願い申し上げます。

J昇格闘争最前線の相手とは今季3分け 岐阜1-湘南【第38節】

一進一退の攻防を繰り返している中でふと僕の眼の中に飛び込んできたものがひとつ。それは2橋本を頂点に3菊池と4田中が形作る美しい正三角形。このトライアングルが形を崩さず自陣バイタルエリアの中央に存在するときは多少相手人数をかけて攻め込んで来ようが安心して観ることができる。まさしく岐阜サッカーの土台だ。多分この安定感はセンターバックのメンバーが入れ替わったところでそう脆くはならないだろう。今日の試合も注目してみたいと思います。

(ST57)

F C岐阜対湘南戦は1対1で引き分け。前半に菅選手の先制ゴールでリードするも後半に追いつかれ引き分け。ただJ昇格を狙うチームに対して互角以上の戦いをできる力がついたのも事実。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！
F C岐阜頑張れ！

(ハマッチ)

湘南のマッターペースにはまり岐阜の持ち味のスピードが消され歯痒い内容でした。個人の差はともかく、組織的な動きでも明らかに劣っていました。蹴り直しのFKで最初と全く同じ動きでは相手に楽をさせてしまいます。それから前から気になってますが安易なヘディングよりしっかりしたトラップが基本でしょう。連戦の疲れは百も承知で苦言を呈しますがこれでは客に感動を与えられないのでは。押谷染谷の二人を使いたいのも解りますが未だ万全な調子ではなかった様子。結果引分けでとりあえずヨシかなあ。観客動員がいつものペースに落ちたのが一番気がかりです。

(ミスター珍道)

去年、今年となかなか勝てない湘南戦。それでも、今季の2戦はいずれも引き分け。昇格争いを演じる湘南に対し、相当のジレンマを与えているだろう内容に健闘ではなく、少しずつ手応えを感じる中で迎えた3度目の勝負。しかしながら、結果はまたしてもドロー。前半は岐阜、後半は湘南と、みごとに主導権の入れ替わった試合。

試合後の両監督のコメントは、いろんな意味でおもしろかった。特に、湘南・反町監督のコメントは、今季の3試合ともなかなか味わい深いものがある。スカパー！「Jリーグ・アフターゲーム・ショー」の野々村と並び、試合後の楽しみのひとつになった。

結局、3戦とも先制しながら追いつかれるという展開に、湘南の、J1昇格に燃えるクラブの意地というか底力を見た思いでいっぱいだ。とはいえ、追いつかれても勝ち越されない。勝ち越されたら追いつく。そんな力強い内容を見せてくれた選手たちにはありがとうと言う他はない。でも、「よくやった」と言うのは、湘南に勝った時まで取っておく。手中にできなかった勝ち点6は、とりあえず貸ししておきますから、来年も岐阜に来てくださいね、湘南さん。

(ぐん、)

メインスタンドから観て、びっくりするくらい湘南が前から「来なかった」せいもあって、前半はやりたい放題に近い展開に。相手のあまりの「下がりっぷり」に「行ける！行ける！」ではなく「後半はなんかあるぞお～……」という気分だったのだけだ、思った通り？に後半は逆の展開。湘南が「修正」してきた」のではなく、当初の計画通りに「変更」してきた」ようにも見えた。それでも1失点=引き分けで済んだのは、守備のがんばりと、先制点の存在かな。積極的に思い出したくない札幌戦のように失点したらあとはずるずる……とはならなかった。我々が札幌相手に「相性の悪さ」を感じてしまっているのと同じように、湘南も岐阜相手に「相性の悪さ」を感じているのかもしれない。

(吉田鑄造)

F C岐阜を去った選手の、その後。

昨年23番だった岩田昌浩が岐阜県リーグ所属チームのフットサル選手として再デビュー。サポーターとして彼らがどうしているか気がかりではありますが、サッカーを続けられる環境に居ると言うことがうれしいです。就職する人、山田正道のようにチームにかかわる人。チームを長く見続けることができると、こういった人と知り合える楽しみが増えてきます。だからこそ、地元チームを応援していきたいものですね。

(ち～な)

最後まで走り抜け！勝利はその先に…… 岐阜3-水戸【第40節】

F C岐阜対水戸戦は3対1で見事な勝利。佐藤選手の1ゴールと西川選手の2ゴールで見事な勝利、ついに勝率5割！。目標の10位も見えて来た。もっともっと上へ！！。次の試合もサポーター全員でF C岐阜を盛り上げよう！。F C岐阜頑張れ！
(ハマッチ)

今日はU-18 トップ、セカンドとトリプルヘッダーを楽しみました。それぞれ懸命なプレーに心打たれました。U-18は上位リーグ入りを、トップはJ2の10位以内を、セカンドは岐阜国体を見据えて着実にレベルUPされ先が楽しみです。この流れを止めない為に財政支援が待たれる所です。トップの試合では吉本君がしっかり守ってましたね。(ミスター珍道)

この試合の前半は、水戸サボさんのそばで応援スタイルを見ました。空中戦でボールを競れば「どりゃー」「どりゃー」と格闘技ファンのような掛け声。チャント数は少ない(3~4つ)が、シンプルで回しやすい。真面目に、楽しんで、精一杯応援する。という気持ちが非常に伝わって楽しかったです。

(ち～な)

9月中旬、晴天の土曜午後1時キックオフ。メモリアルは気温29度、きつい日差し。選手にとっても、サポーターにとってもなかなか厳しい条件での「長良川劇場」となった。

水戸の選手は体力を奪われ、後半には動きが落ちてしまい、水戸サボはバクスタ端の屋根の下にて応援。もちろん、この条件は岐阜の選手やサボにとっても同じで、この試合で初スタメンの吉本も足がつって交代。岐阜サボも久しぶりの日中の試合で、しっかり日焼けして体力を奪われた人も。

そんななかで、89分に西川はこの日2得点目をあげて、水戸を突き放した。このところ、終盤につまらない失点が続いてしまらない終わり方をしていたが、最後の最後にダメ押しの得点をしたことを評価したい。もちろん、2-0の無失点で終わるのも悪くはないが、総得点が順位に関係することを考えると、3-1にした事はよかった。

あとは、ゲームの入り方、つまり開始15分をしっかりとすれば、もっと上の順位がみえるのではないか(この試合の日に行われた鳥栖対富山戦の結果により10位に、また、岐阜の勝率も開幕以来の5割となった)。

(緑の小太鼓)

なぜか水戸には相性がいい。戦績で言えば、去年と今年で2勝1敗3つの引き分け。特に際立った成績ではないが、試合内容のインパクトがデカいせいだと思う。去年のアウェイは3-1、4-10の大量点。結果も、評判の高かったスタジアム・グルメ(今年は残念ながら、状況がかわり...)も満喫できたし、今年の初戦もアウェイで逆転され2点差をつけられたあげく、退場者を出し一人少ない中で終了間際の同点劇。森山のゴールやガチャ、大人の、彼ららしい(笑)ゴール。俊慶の終了後の挨拶の初々しさ。そういったモノがないまぜになって、悪くない印象ができあがっているんだと思う。

とはいえ、ここまで長良川では1敗1分け。未だホームでの勝利がない。さらに、昨年までとは違い、J1昇格争いにもからみ、現在でも可能性を残している水戸の強力2トップ。荒田と高崎というタイプの違う二人は、J2得点ランキング上位に顔を出し、なおかつ最近も絶好調で万に一つも油断のできない相手であることは間違いない。そんな中で始まった水戸との今季最終戦。

ところが、これも相性なのか。基本的にというか仕様というか、立ち上がりに難のある岐阜が開始からチャンスを作る。水戸の2トップの脅威も感じつつ、スコアレスでの前半終了は目論見どおり？そして、後半の先制点。洗一のゴールはセクシーすぎるっ！ゴールエリア内とはいえ片手で敵DFをロックして何もさせず、GKの届かないところへ鮮やかな一撃！もう、こんな見せられたら堪りません。ただ見に来たという方でも、これだけで入場料の元取れまっせ的なゴールでした。その後の2点は優大のヘッド。ついに来たか、という感じ。高さは十二分にあるのに、これまでは足でのゴールばかり。これから量産する予感？いつのまにか、9得点。ついに二桁目前まで来た。残り試合も勝利を決めるゴールを決めてほしいと、スピードのあるツインタワーに願いを込める……。そして、ホームでの水戸戦初勝利をありがとう！

(ぐん、)

上げ潮は対戦相手も同じ。悔しい敗戦 栃木 2-1 岐阜【第4節】

わが国には“北関東”と呼ばれる地域があって、そこにはJ2クラブが各県に一つずつ存在し、その3クラブで「北関東ダービー」なるものを争っているらしい。もちろん(笑)、この地域のJリーグ所属クラブ関係者のみが勝手にやっていることだが、そこで一位になると表彰もあるとのこと。その北関東の3県とは、茨城(水戸)、群馬(草津)、そして栃木のことだ。去年は栃木がJではなかったため、水戸と草津で争ったと聞く(ちなみに、茨城にはもうひとつ鹿島というクラブがあるが、あそこはJ1だし、県内でも独特?な地域なので対象外となっている)。

で、今のところ水戸が最上位のようだが、実はこの3クラブに対し4勝3分と圧倒的な成績を残しているクラブがあった。FC岐阜である。水戸には1勝2分、栃木に1勝1分、草津には2勝。全部で9戦のうち2試合を残して、勝ち越しを決めている相性の良さ。以前から気づいてはいたが、フラグを立ててもマズイのでこっそりネタとして暖めていたのだけれど、どうやら仲間も気づいていたらしい(苦笑)。

そんな中で迎えたアウェイ栃木戦。最下位とはいえ、20番河原を中心にこのところ好調の相手。しかも、今季開幕戦で岐阜に敗れたホームでの再戦とあって、栃木の選手もサボりかなりアツク燃えている様子。「負けるワケにはいかない」と、こちらに関東サボを含めた遠征組が、留守番組の気持ちも背負って試合に臨む。さらに、このところ2戦連発、ニケタ得点目前のNo.16西川優大を、この日デビューの彼のチャントで盛り上げる。この日はNo.2押谷祐樹の誕生日とあって「是が非でも勝利で祝おう」と気合をいれたのだが.....、残念ながら1点差の敗戦。どのチームもそうだろうが、やはりサッカーというゲームにおいては先制点の影響が大きい。ましてや、後半に結果を出している岐阜にとって、前半をイブンにして終わることは精神的にも重要だったハズ。開始早々の優大のシュート辺りには得点の期待もあったが、嶋田の接触プレーでのアクシデントに対応が遅れ、ゴール前での確実なクリアができずに先制を許す。その後は、後半も半ばを過ぎるまでほぼ栃木のペース。パスの出所を狙われ、激しいコンタクトに腰が引けた訳でもなろうが、ややおとなしめに対応した嫌いがあるかも。前半終了間際の素早いリスタートや、1点返したあとの染矢のシュート、アディショナル・タイムの押谷のルーブなど惜しいチャンスはあったものの、ゴールインしなかったシュートはゴールじゃない。「タラ、レバ」には意味がない。歓喜に沸くスタジアムを眺めて、ますますホームで勝つことの素晴らしさを感じただけけれど、ともかく、これで栃木とは1勝1分1敗の五分。幸い、天皇杯でもう一度対戦が決まっている。ぜひとも勝利してみんなで喜びを分かち合いたい。なにしろ、決戦の場は我らのホーム・長良川劇場なのだから。(ぐん、)

【セカンド】2度目の「全国への挑戦」 は、再び全国の厳しさを味わう。そして、 今年はまだ一つの「全国への挑戦」が。

FC岐阜のアマチュア組織であるFC岐阜セカンドは8/23、8/30に行われた天皇杯岐阜県予選を勝ち抜き、見事、岐阜県代表として天皇杯一回戦に出場となった。対戦相手は新潟県代表のジャパンサッカーカレッジ(以下JSC)。北信越リーグ1部優勝の強豪で、コーチには昨年までセカンドの監督をしていた辛島さん。なかなか、因縁めいた対戦となった。

この試合の行われた9/19は13時から水戸戦が行われ、この試合の終了後にメモリアルからメドウへ移動となった。あいにく、ダンマクの片付けで到着は前半30分で0-0。先に到着して見ていた人によると五分の内容らしい。すると、カウンターからGK今津が1つピンチを迎えるが、これをGK今津が身体を張ってセーブ。これを見て、助かったと思ったが、ヤバイとも思った。「このパターンは...」そう思っていると、前半44分カウンターでピンチを迎えて失点。

後半も、カウンターから2失点し、セカンドはPKで1点を返すにとどまった。結果、1-3でJSCが勝利。悲願の一回戦突破はならなかった。

この試合、たまたまボールボーイの後ろに座ったのだが、失点について、「やっぱり、カウンターから失点したよな。」と、言っていた。これを聞いて、こんなに簡単に見抜かれるとはと驚きつつも納得してしまった。

実は、この試合の前の9/6、セカンドが所属している県リーグ1部の試合が行われた。試合は11-0で勝ったものの、この時も、カウンターからピンチを作られていた。また、県代表決定戦の時もカウンターからの失点。いくらJSCがカウンターから得点するチームだとしても、所属リーグの差と片付けるには、あまりに... (JSCはJ1から数えて4部リーグ、セカンドは6部リーグとなる)。聞いたところによると、メインスタンドで観戦していた、FC岐阜OBで県代表決定戦のTV解説をしていた小島宏美氏はかなりご立腹だったらしい。

セカンドのこの後の予定は9/28に新潟国体一回戦で、新潟県代表と戦う。そう、この新潟県代表はJSCの単独チーム。再び、あいまみえることになっているのだ。ぜひ、課題を克服してリベンジをはたして欲しい。(緑の小太鼓)

メドウで行われた天皇杯一回戦は1-3でジャパンサッカーカレッジ(以下JSC)の勝利。前半はどちらかといえば2NDが推していたが、CKからのカウンターで失点。後半はシステムを変え、ターゲットとなるFWを変更するなど策士辛島さんの用兵が見事。あっさり2点目を失い、こちらPKを得て1点差に追いつくも突き放され、敗戦。

この試合は、強い対戦相手の中で磨き上げてきた強さの差でした。2NDも攻めてはいるのですが、キーとなる選手を囲まれてボールを奪われカウンターを受ける、と見事に守備の網にかかってしまい、自分達のやりたいサッカーが出来ます。JSC側の16、13、20番は、体格も動きの質も違いました。率直に言うと、JSC側の選手個々の基礎や戦術観はかなり高い印象。逆に言うとその能力を手に入れば、まだまだ2NDも強くなれる。敗戦は自分を見つめる糧。切り替えて全社や岐阜県リーグ突破に向けてがんばってもらいましょう。皆様ご支援よろしくお願いたします。(ち~な)

9/29岐阜経済大Gで、FC岐阜セカンドの全国社会人サッカー選手権大会出場に際しての遠征費を援助しようと、サポーターの皆様から集めた募金の贈呈式が行われました。その金額は5万円。「岐阜 SECOND IMPACT」と書かれたシールを作製、一口¥500で募金していただき、そのお礼にこのシール1枚をお渡しするというやり方で、¥500×100口で5万円が集まりました。この募金のきっかけは、セカンドが全社に初出場でそのお祝いをしたい、また、トップチームも金欠で困っているのだから、セカンドも厳しいに違いないし、その遠征費は結局、FC岐阜の負担になると予想されたからです。今回の募金は、皆様のご協力もあって、あっという間に100口が埋まりました。そして、ようやく、セカンドにお渡しすることが出来ました。ご協力していただきました皆様に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。(緑の小太鼓)

「いらっしやいませ」より

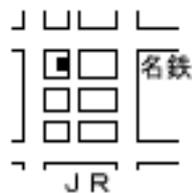
「おかえりなさい」が似合う

アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休：日曜日(今日はお休みです)



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど... 心の花が咲く...
何も無い店だけど... 心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)